

あいめーる

平成 26 年 4 月 1 日発行
発行
社会福祉法人 愛隣園
障害者支援施設 愛隣館
発行責任者 三浦貴子
編集 広報チーム
キャリアビジョン

〒861-0551
熊本県山鹿市津留 2022
TEL 0968-43-2771
FAX 0968-43-2793
http://aileans.com
E-mail
ailinkan@magma.jp

SPRING

生活介護事業所特集 愛隣館通信

育児をしながらの初めての職場。毎日がバタバタと過ぎ、気が付けば愛隣館へ勤務させて頂くようになって、この春で六年目に入ります。

利用者、職員の方々の食事を作っていますが、昼食になると一六〇食。慣れるには大変な量でしたが、とてもやりがいがあります。

年が明けた頃に、館長から熊日新聞で募集されていた「県産食材を使ったキャラ弁コンテストに応募してみない？」と勧められて、永田美香さんと共同制作で、八千代座の百周年記念ゆるキャラ千代松くんのキャラ弁を作ることになりました。

千代松くんは何の食材で作ろうか：周りのおかずは：と試行錯誤しながら「千代松 夢大地に立つ」が完成しました。

チーム MIKAZUMI (村上和美)



(写真右上：準グランプリ作品 「千代松 夢大地に立つ」) 撮影：岩下 勉

目次

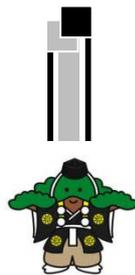
千代松夢大地に立つ 準グランプリ	1
2. 19障害者権利条約 国内発効	2
西日本国際財団アジア貢献賞ベトナム育英会受賞	2
アール・プリュット・ジャポネ展	2
アール・プリュットパートナーズ熊本設立	3
地域福祉部報告懇談会	3
災害時要援護者登録について	3
生活介護事業所特集	4・5
新しい仲間	6
新人紹介	6
第三回山鹿市社協福祉まつり	6
愛隣館豆まき	6
第三十九回JA植木まつり	7
バレンタイン家族報告会	7
東京学芸大学生の見学と交流	7
熊本城マラソン2014	7
山鹿灯籠浪漫・百華百彩	8
スプリングラー設置工事終了	8
編集後記	8

熊日新聞社が、「県農業コンクール大会」特集号の企画として、多彩な県産食材を使ってキャラクターや動物、乗り物、風景などを自由に表現した弁当「県産食材『キャラ弁』コンテスト」を募集しました。

エントリーした食生活課の栄養士、永田さんと村上さんが山鹿市の宣伝をかね、国指定重要文化財八千代座のキャラ「千代松」を題材に、市内でとれた新鮮食材をふんだんに使い、見事なキャラ弁を完成させました。

二五四件の応募の中、審査会が一月十六日に行われ、二人の作品「千代松夢大地に立つ」が、見事！準グランプリを獲得しました。

永田美香(右) 村上和美(左)



千代松夢大地に立つ
準グランプリ

2・19 障害者権利条約 国内発効



館長

三浦 貴子

一月二十日に国連障害者の権利条約を日本国が批准し(141番目)、二月十九日国内で発効しました。

日本の署名から七年目、条約に見合う制度改革を先に行うから批准をすべき、との障害当事者を中心とする願いは、障害者基本法の改正、障害者総合支援法の成立、日本の法制の中で困難ではないかと言われた障害者差別解消法成立の実現を果たしました。

条約策定への当事者参加スローガン「私達抜きに私達のことを決めないで」の声は、日本の障害者制度改革の基調を作りました。様々な困難の中改革をリードした人が、利用者スタッフの長年の友人、熊本の東俊裕弁護士(元内閣府障害者制度改革担当室長)であることを、私達は誇りに思っています。

この『あいめーる』の企画・編集は利用者広報チーム、キャリアビジョンが担っています。春号、私への依頼は「権利条約について書くこと」とした。いつもは自由にですが、今回はいろいろあるでしょうが条約を！の限定に、改めて当事者の方々の喜びを感じました。

条約の理念は「他の者との平等」。特別な権利を求めるのではなく、障害のない人々が当然に持つ権利を障害のある人々も持つことです。翻訳を手がけ

た国際法の川島聡さんは人権価値を「条約の根」と呼びます。尊厳・自律(自立)・差別の禁止・機会平等・社会包摂(社会が個人を受け入れる)・男女の平等・サービス等の利用のしやすさなどが一般原則です。

そして、「条約の幹」を社会モデル―障害者の不利益は障害と社会障壁との相互作用から生じる―としています。

これらの基本をふまえ、人生と生活をイメージできるほど個別具体的に権利を保障する条約の下、教育、労働、生活支援などの体制を組む時代に入りました。

これまで、障害当事者の方々には条約が浸み込むと感じてきました。どれだけ励まされ、大切な自尊感情を育むかを見てきました。身障協白江副会長が言われた、「批准の時に関係する者の責任」を自覚し、その時代を共に生きたいと願います。



第十五回西日本国際財団

アジア貢献賞ベトナム育英会受賞



三月五日(水)ホテル日航福岡にて公益財団法人西日本国際財団主催の平成二十五年度第十五回西日本国際財団アジア貢献賞授賞式が行われました。この賞は、アジアとの国際交流に貢献している九州・山口・沖縄地域の団体・個人等を毎年表彰するものです。今回、国際協力教育支援分野でベトナム育英会・代表の秀嶋正孝氏が受賞されました。

活動内容は、二十年以上に亘り、ベトナム料理店の経営などで資金を作り、子ども達や障がいのある

方への奨学金、バスツアー、

愛隣館と協力

し日本で譲り受けた車椅子を整備して、

ベトナムの障

がいのある

方々に届ける

「空飛ぶ車い

す事業」等で

す。

また、震災後

一週間、九州の支援物資を乗せた愛隣号で、仙台まで届けた活動も評価されました。

受賞を心よりお祝い申し上げます。



アール・ブリュット・ジャポネ展

二〇一三年十二月七日(土)～二月二十三日(日)熊本市現代美術館にてアール・ブリュット・ジャポネ展が開催されました。

この展覧会は、二〇一〇年三月から翌年の一月までパリ市立アール・サン・ピエール美術館で開催され、十二万人もの来場者を魅了した展覧会の巡回展です。

アール・ブリュット【仏: Art Brut】とはフランス語で「生(き)の芸術」と言う意味です。

Art は芸術、Brut はワインなどが生



右から五人目 和装の秀嶋氏

(き)のままである様子を表し、画家のジャン・デュビュッフェが一九四五年に考案した概念です。

正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出した既存のモードに影響を受けていない絵画や造形の事を指します。

全国から集められた身体・知的・精神の障がいを持った作家六十三人、約六百点の作品を展示してありました。

今回、初開催の熊本でも七千七百人とという異例の観覧者数を記録しました。



● Aール・ブリュット
パートナーズ熊本設立 ●

Aール・ブリュット
パートナーズ熊本事務局
納富 久

平成二十六年一月二十六日(日)ホテル日航熊本で開催された創立の集いにおいて、ご参加の皆様のご承認のもと「Aール・ブリュット(生の芸術)パートナーズ熊本」が設立されました。

この会は、障がいのある人々の芸術活動を推進するため、表現して生きる環境づくり、評価を受ける機会づくり、多分野における連携ネットワークの構築を図り、障がいのある人々の自立と社会参加の促進並びに共生社会の実現を目指すことを目的としています。

また、今後は、情報交換を始め、芸術の普及・啓発、作家の発掘・相談支援・権利保護等の活動を行うべく予定です。今後の、Aール・ブリュットパートナーズ熊本の活動にご協力をお願いいたします。

地域福祉部報告懇談会

三月十一日(火)の午後二時より、愛隣倶楽部に平成二十五年度の地域福祉部報告懇談会が開催されました。

当日は、地域福祉部それぞれの利用者・ご家族の参加がありました。

三浦貴子館長のあいさつ及び障害者施策等の情勢説明の後、生活介護事業所愛隣倶楽部、生活介護事業所デイケア、ホームヘルプ、相談支援事業、地域活動支援センターぴあぴあ、就労移行支援事業所ぴあワーク、多機能型ケアホームぴあハウス、短期入所の各事業所と事務部より、平成二十五年度の事業



お茶会をしながらの質疑応答や意見交換

報告と次年度の事業計画(案)の説明とお知らせがあり、各部に分かれ質疑応答や、活発な意見交換が行われました。

この日は、東日本大震災が発生し丸三年。午後二時四十六分に参加者全員で鎮魂と復興を祈り黙とうをささげました。

災害時要援護者登録について

山鹿市では、厚生労働省の指導に基づき、災害時に支援を必要とする方を対象(障がいのある方、高齢者等)として、市と地域が連携してこれらの人々を支援する体制づくりがすすめられています。

個人情報開示の同意のもとに、登録された災害時要援護者の名簿を作成し、市と地域が災害時に支援を必要とする方の情報を共有(嘱託員や民生委員・児童委員、消防団、地域支援員)することにより、日頃の見守りや、災害が発生したときに情報の伝達や避難等の手助けが速やかに行われるよう備えておくものです。

愛隣館地域福祉部でも、利用者の方々に登録についての説明を行い、同意が得られた方々の名簿作成を行っています。登録の内容は、基本情報をはじめ、かかりつけの医療機関、治療中の病気や障害、避難した場合特に注意すべき事項、緊急連絡先等を記入する欄があり、個々の身体状況に即したものとなっています。

地域福祉部

生活介護事業所特集

愛隣館デイケア



平成二十六年 三月現在

デイケアでは、身体の介護を含む、入浴、パソコン・陶芸・手芸などの創作活動（障がい者芸術展への出展等）レクリエーション（ご希望の方を募ってのお買い物等）昼食、機能訓練、介護方法及び各種相談などのサービスを実施しています。

一泊旅行・日帰り旅行は、代表世話人を中心に、利用者が主体となり、アンケート調査で先行を決め、企画したものを実施しています。

現在の登録状況は、男性三十一名、女性二十名、合計五十一名、平均年齢六十五歳です。

生活介護事業所では、身体・知的・精神の三障害を対象に利用して頂き、身体の介護や入浴、創作活動・レクリエーション、昼食、機能訓練、介護方法及び各種相談などのサービスを実施し、楽しく日中を過ごしていただき、日常生活上の支援を行います。

開所時間は、月曜日から金曜日の10:00～16:00、毎日利用できる施設です。季節に応じた行事にも参加しています。

愛隣倶楽部



平成二十六年 三月現在

愛隣倶楽部では、利用者二名に対し職員一名と看護師が配置されている事で、医療行為が必要な重度の障がいをお持ちの方でも利用して頂けます。

身体の介護や自律の促進、生活の質の向上等を図ると共に、地域行事や催しに参加し、地域の人々との交流。その他の状況及びその置かれている環境に応じて、ご本人の希望に沿った活動を支援しています。

現在の登録状況は、男性十五名、女性十一名、合計二十六名、平均年齢四十四歳です。



訓練室にて、理学療法士の指導のもと訓練を実施。



利用者が主体となるデイケア旅行の会。



毎週月曜日に外部講師を迎えてのパソコン教室。



毎週水曜日に外部講師を迎えての手芸教室。



デイケア十周年・二十周年記念文集の発行。



毎週火曜日・木曜日に外部講師を迎えての陶芸教室。



月曜日から金曜日、利用者の送迎を実施。



看護師による体温と血圧の健康チェック。



チェアーインバスによる入浴サービス。



昼食は、利用者とスタッフが一緒にいただきます。



愛隣館で行われる音楽クラブやヨガ教室に参加。



毎月一回のホームルームを開催要望に沿った日中活動の実施。



新しい仲間



入居者

長谷部 一喜

皆さん初めまして菊池市から来た長谷部一喜です。

愛隣館に入所する前は桜十字病院に入院してました。

趣味は、野球・ボーリング・旅行です。入って三ヶ月経ちましたが、まだ入居の方や職員の色々と名前が分からないので早く覚えて愛隣館の生活に慣れたいと思います。

目標は自分の足で歩き、また野球やボーリングをやりたいと思っています。

皆さんよろしくお願ひします。



看護課

有働 俊哉

新人紹介

はじめまして、この度看護職員として採用された有働です。生まれは旧菊水町です。高校卒業後、海上自衛隊に入隊し護衛艦の調理員として、船酔いに苦しみました。その後、准看護師の資格を取得し、

機上救護委員(メディック)として厚木や硫黄島、鹿屋等に勤務してきました。仕事は、ヘリで海上や船から人を救助したり、離島からの急患輸送です。

一月に定年を迎え、縁あって愛隣館に勤務させて頂くことになりました。戦力になるのはまだまだ時間がかかると思いますが、笑顔だけは絶やさないように頑張る所存です。

先輩職員の方々を見習いつつ、看護面での支援に努めたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

第三回山鹿市社協福祉まつり

二月二日(日)

山鹿市総合体育館にて、山鹿市社協福祉まつりが開催されました。



山鹿中学校吹奏楽部のオープニングセレモニーの後、戦場カメラマンの渡部陽一さんが、「世界からのメッセージ」希望ある明日のために」と題して、戦場の様子をスライドを使いながら独特の喋りで講演されました。午後からは、英太郎ものまねショーやお楽しみ抽

選会も行われました。

同時に、体育館では、ボランティア団体の活動パネル展や福祉関連団体の展示即売会が行われ、愛隣館も陶芸作品やパステルアートの展示販売を行いました。

入居者の前田秀之さんと杉山伸一さんもアクティビティにて職員二名と参加。講演会の後は、屋外の出店で買い物を楽しみました。

愛隣館豆まき

二月三日(月)

節分の日に愛隣館食堂にて、豆まきが行われました。

今年は、入居者の江上恵子さん、巢山浩さん、田中正人さんが年男、年女でした。

今回使われた

鬼やおたふくのお面は、入居の方が手作りされたもので、十名近くの方が鬼役として集まりました。

実習初日の九州看護福祉大学の実習生三人も加わり、所狭しと逃げ回る大勢の鬼の前に、参加された皆さんは「福は内!鬼は外!」と元氣よく、無病息災を祈りながら、賑やかに豆まきを楽しみました。



第三十九回 J A 植木まつり

熊本の春の訪れを告げる緑の祭典「第三十九回 J A 植木まつり」が一月二十五日(土)から二月二十四日(月)まで、合志市の熊本県農業公園カントリーパークで開催されました。

二月四日(火)の午後より、アクティビティにて、寺田タカ子さん、大野澄男さん、多田隈ヨシエさん、池田正治さん、職員四名の合計八名で行って来ました。

今年も県内 J A から、松・マキ・ツゲなどの庭木をはじめ、洋ラシオン・花苗・観葉植物などの鉢物、地域自慢の特産品など約百二十万点が展示即売されました。

また家庭菜園教室やガーデニング教室など、楽しめるイベントも多数催されました。



愛隣館中庭にて、植木まつりで買った花の苗を手に。

バレンタイン家族報告会

二月十五日(土)平成二十五年度の家族報告会がテイルームにて開催されました。

今年の参加家族は、一号館十四家族、二号館十三家族、三号館十家族の計三十七家族でした。

生活サービス部(ケア課、看護課、食生活課、リハビリテーション・アクティビティ課)地域福祉部、事務局、相談支援事業所等、それぞれ各部より事業報告が行われました。

入居者と、その家族、職員が一緒にテーブルを囲んでの昼食会。

午後からは個別面談をご希望の三十三家族を対象に、個別支援計画の確認や、計画相談支援の契約等を始め、ご希望や相談を聴きました。



東京学芸大学生の見学と交流

二月二十七日(木)から三月一日(土)の三日間、加瀬進教授と十六名の学生、計十七名で法人愛隣館に視察研修に来られました。

学生を代表して、愛隣館での感想を頂きましたのでご紹介します。

「愛隣園を見学させていただき、また皆様と交流させていただきありがとうございました。」

愛隣園・愛隣荘・愛隣館・愛隣の家、どの施設どの家も暖かな雰囲気にも包まれているように感じました。車いすを押すことや食事の介添えなど、初めての者もいて不慣れなお手伝いでしたが、貴重な体験をさせていただきました。

アクティビティにも参加させていただき、愛隣館チーム対大学生チームでポッチャをしました。結果は私たちの惨敗であり、皆様の元気と連携に圧倒されました。

こうして皆様と過ごさせていだいた時間は、学校の勉強では得られない学びがあり大変充実したものであります。

本当にありがとうございました。」

人間社会科学学科・総合社会システム

江藤瑞希 藤井彩加



加瀬教授・三浦館長・田中主任・対戦した学生と一緒に

熊本城マラソン 2014

二月十六日(日)開催の熊本城マラソン 2014 に、デイケア職員の前田明さんと桐谷清さんが出場し、見事、完走しました。

なお、『目標としていた初マラソンで完走出来ました。』ゴール後の達成感には言葉に出来ないものでした。愛隣館の皆さん、たくさん応援ありがとうございました。『前田』(前田)

『目標タイム(五時間三十分)には遠く及ばなかったものの終始マイペースで走れたことは次の自信に繋がりました。また、トレーニング環境及び家族の協力(食事管理)に恵まれたことに感謝します』(桐谷)とお二人からコメントを頂きました。ありがとうございました。



山鹿灯籠浪漫・百華百彩



ケア課

米崎 みどり

二月二十二日(土)アクティビティにて、前田秀之さん、池田祐美さんの二名とスタッフ二名で「山

鹿灯籠浪漫・百華百彩」を見学にきました。

八千代座までの通りは、古き街並みの景観と竹灯籠、和傘、ロウソクの竹灯りがとても合っていて、街並みと調和し、幻想的な輝きを見せている様に思えました。

夜になると日中の暖かさは消えとても寒かったのですが、物凄い数の竹灯りの美しさに、「来てよかったね、きれいだったね」と寒さを忘れました。また、来年も見に行きたいと思いました。

スプリンクラー設置工事終了

昨年の十月三十日より、びあハウスのスプリンクラー設置工事を熊本県障がい者福祉施設耐震化等特別対策事業(スプリンクラー整備事業)からの補助を得て進めてまいりましたが、三月十日で工事終了。消防検査も無事



完了しました。

工事期間中、車の出入りなど、利用者の皆様にはご迷惑をお掛け致しました。改めてお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

編集後記

たくさんの

根を張り、せいっぱい茎を広げて春を待つ田んぼのあぜ道に生えている田ぜり、子供の頃、私もまた春を待ちわびるかのようにせり摘みをするのが楽しみでした。もう一度、あの独特の香りがする田ぜり食べたいなあー。

広報部新人の源恵美子です。何か一つでもお役に立つことが出来れば幸いです。どうぞよろしく願います。

キャリアビジョン



左より 井上・坂田・源・松島・岩下

『あいめーる』の企画・編集は利用者で構成された広報チーム、キャリアビジョンが担っています。